

生活との関連実感を

山城校長 NIE実践を紹介

島尻地区の32教育研究団体が一堂に会する島尻地区教育研究団体連絡協議会総会(安谷屋守松会長)で21日、那覇市立小祿南小学校の山城銀子校長が講演した。同小でのNIEの取り組みを紹



山城銀子校長

介し「勉強したところが実際に使えたという喜



NIEの実践例が紹介された島尻地区教育研究団体連絡協議会総会(21日、八重瀬町南部総合福祉センター)

びは、学ぶことの楽しさにつながる」と意義を強調した。南部総合福祉センターで開催された同講演は「NIEで『学ぶ意欲』の向上、実生活につなげた指導を通して」と題し、新聞の見出しから習ったカタカナを探し出す1年生の授業など、同小主体のNIE実践例を紹介。参加した島尻地区の教員85人は熱心に耳を傾けた。

講演を終えて、山城校長は「新聞を使って学習することで言語活動が充実し、学習意欲の向上を促す。新

聞を通して実生活とのつながりを実感させることが大切だ」と語った。

参加した知花綾子与那原中教諭は「中学校でもできる例が多くあった。新聞を子どもたちの身近なものにしていきたい」と意欲を見せた。